

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	両荘地区義務教育学校新築外工事	階数	地上4F
建設地	加古川市平荘町山角字松ノ内725番	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	700人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,800時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年3月10日
敷地面積	29,745 m ²	作成者	浪江 明弘
建築面積	4,888 m ²	確認日	
延床面積	10,130 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	0
②建築物の取組み	46
③上記+②以外の	92
④上記+	92

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.4

音環境	2.9
温熱環境	3.2
光・視環境	3.4
空気質環境	3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

機能性	3.7
耐用性	3.0
対応性	3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.0

LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.1

建物外皮の	2.6
自然エネ	2.0
設備システ	1.6
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

水資源	3.4
非再生材料の	3.7
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

地球温暖化	2.8
地域環境	3.0
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
Q1 (室内環境) からLR3 (敷地外環境) までの6つの項目をバランスよく向上させ、総合的に環境性能に配慮した建築物とした。		
Q1 室内環境 界壁の遮音性能の確保、昼光率の確保、F☆☆☆☆建材の採用など室内環境の向上に配慮している。	Q2 サービス性能 維持管理に配慮した設計、バリアフリーへの配慮、天井高の確保等により建物の機能性を高めるとともに、耐用年数の長い配管材料を採用するなど耐用性・信頼性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 道路境界を中心に中高木を植樹するなど、敷地内にじゅうぶんな緑地を確保し、室外環境に配慮している。
LR1 エネルギー 太陽光発電、高効率空調機、LED照明等を導入し、省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 節水水栓、節水便器やリサイクル建材を導入し省資源に配慮するとともに、地球温暖化係数、オゾン破壊係数の小さい断熱材の使用にも取り組んでいる。	LR3 敷地外環境 光害の抑制など敷地の周辺の環境にも配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される